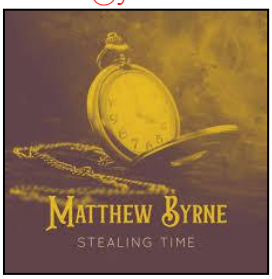
MAIL Order List 2025-#3 （2025 年 7 月 8 日作成）

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com
email: tambour@ya2.so-net.ne.jp



（List 2025-#3 紙版使用表紙ジャケット）
MATTHEW BURNE/Stealing Time（Canada{Newfoundland}）

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。
Ａ￥１９８０(税込み¥2178)　Ｂ￥２１８０(税込み¥2398)
Ｃ￥２３５０(税込み¥2585)　Ｄ￥２５８０(税込み¥2838)　Ｅ￥２８８０(税込み¥3168)
Ｘ￥４８０(税込み¥528)　Ｙ￥９８０(税込み¥1078)　Ｚ￥１４８０(税込み¥1628)
※発売年が 10 年以上前の商品は検品してお届けします。

（送料）
※ご注文枚数に関係なく《一律１８５円》郵送
ただしＬＰを含む場合は一律６６０円。
※代金引換送料（郵送）：590 円何枚でも）
ＬＰを含む場合は＋２５０円。
注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

【ご注文はできるだけ 7/24 までにお願いします】
にてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●お問合せはメールにてお願いします。



タムボリンの前の夏椿。夕暮れ時になるとあちこちからヒグラシの大合唱。

（夏休み前の通販リスト）

猛暑お見舞い申し上げます。

*ポンド･ユーロ高も少し落ち着いたかと思いきや､イスラエルがイラクを攻撃した頃から記録的なポンド･ユーロ高に｡加えて輸送費も値上がり｡やむなくプライス･コード"Ｅ"を設けました。Ｅ￥２８８０(税込み¥3168)

*今回もご紹介したい音盤ばかりになりました｡米国の SSW (Singer & Songwriter)やイングランド､スコットランド､アイルランド､カナダのフォークやトラッド関係はどれも粒よりのアルバムばかりです。

*年々１アイテムに対しての販売枚数が減る傾向にあって､前回販売した Eric Andersen の"Blue River Live in Tokyo"は､この 10 年間で一番か二番の売れ行きでした｡"Blue River"好きの Eric Andersen ファンの期待が販売枚数に表れたのかと思われます。

*おそらく同時進行で制作されたであろう Eric Andersen のスタジオ録音の新作(二枚組)がこれまた素晴らしく(反響続々と寄せられています)､また CD のライナーノーツの内容が興味深かったので､ライナーノーツの和訳と歌詞の内容が面白い"After This Life"の歌詞を CD に付けて販売することにしました｡前回 CD を購入された方には何らかの方法でお届けします。

*超ユーロ高のため欧州大陸からの仕入れは取りやめました。

（**分割払い**）

*分割払いをご希望の方はお申し出下さい｡最初のお支払いは請求額の半額になります｡残り半額は 8 月 31 日まででＯＫです。

USA, Canada, UK & Ireland, England, Scotland, Ireland,

Europe 他, その他(CD、LP セール), あとがき

（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

[CD,LP/USA{Singer & Songwriter]



(Kassi Valazza)

*KASSI VALAZZA:From Newman Street(CD) C

*KASSI VALAZZA:From Newman Street(LP) ¥4780(税込み¥5258)

(Kassi Valazza の待望の三枚目｡これが待った甲斐のある胸キュンの女性 SSW アルバム｡No Depression 誌は本作について｢上品で控えめなフォーク調で､主に Joni Mitchell を想起させる｣と表現｡その表現は的を射ていて､Kassi は普段の憂うつな日々を背景に思いを巡らした唄を､Joni Mitchell のヴォーカル･スタイ

ルに似たヴォーカルでうたい通す。基本は Kassi のアコギの弾き語りだが、加えてペダル・スティール、エレキギター、オルガン、ドラムス、ベース他に Camille Weatherford と Casey Jane Reece-Keigler のバッキング・ヴォーカルを含めたナチュラルなサウンドはほどよい旨みがあって、1970 年代の陰影のある良質の女性 SSW アルバムを聴く感触。名盤誕生。2025 作。Fluff And Gravy)

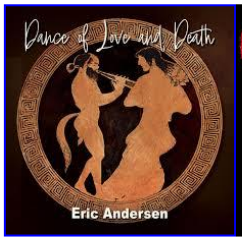
[LP/USA{Singer & Songwriter]



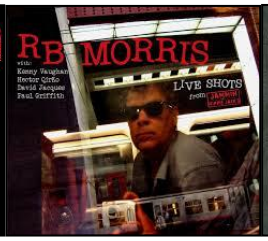
(Michael Hurley)

*MICHAEL HURLEY:Sweetkorn ¥3780(税込み¥4158)
(2025 年 3 月 31 日にコンサートからの帰宅時に倒れ、翌日 4 月 1 日に急逝した Michael Hurley のラスト・アルバム。本作は 2002 年に CD でリリースされた"Sweetkorn"からの７曲をリメイクし、新曲１曲を加えて LP 化したもの。リメイクはどの程度手を加えたかは不明だが、Michael Hurley のヴォーカルと彼が爪弾くギターやバンジョーの音色は彼の悠々自適な個性が正に悠々と表出されていて、これぞ Michael Hurley!といった趣きなのだ。収録曲はA 面４曲と B 面４曲の計８曲のみだが、彼の飄々とした音楽を聴いていると、時間の感覚がなくなってしまう。古今東西、彼のようなシンガーは皆無。ジャケットもディスクも文字が手書きなのも気分ホッコリ。個人的にも宝物。2023 作。Mississippi)
※お客様から Michael Hurley と Kassi Valazza の共演動画があるのを聞いて、ふと Michael Hurley の情報を探したら、本作がリリースされていたのを発見したと同時に亡くなっていたのを知りました。半世紀以上にわたりありがとう。
*GUY CLARK:Dublin Blues-30th Anniversary Edition
¥4780(税込み¥5258)
(1995 年発売"Dublin Blues"の 30 周年記念盤。未発表曲"Once More With Caution"{Emmylou Harris と Verlon Thompson がハーモニー・ヴォーカル}のボーナス・トラック付。1995 年/2025 作。Compass)
*SON OF THE VELVET RAT:Ghost Ranch(LP)¥4780(税込み¥5258)
(Georg Altziebler & Heike Binder の夫婦デュオ"Son Of The Velvet Rat"の本作は 11 枚目らしい。聴くなり釘付け。ソングライターの Georg の陰鬱なヴォーカルと Heike の寄り添うハーモニーの独特さと、一応ルーツロック風だが、ひねりや歪みのあるロックの独特さは、他の同類の音楽を寄せ付けぬ個性と孤高さがある。トータルに秀逸。2024 作。Fluff & Gravy)

[CD/USA{Folk､Rock}系]









(Eric Andersen)　(Calvin Russell)　(RB Morris)　(Larry Jon Wilson)

*ERIC ANDERSEN:Dance of Love and Death ¥3580(税込み¥3938)
(御年 82 歳の Eric Andersen の 20 数年振りの完全新作の二枚組。全 17 曲。誰がこれほど素晴らしいアルバムを予想しただろうか。気力が充実している上に齢を重ねた分の深みのある唄は､彼のいかなるアルバムとも比較できないほど感動の度合いが大きい。プロデューサーの Steve Addabbo や妻の Inge Andersen の他､多彩かつ多才な共演者達のサポートも Eric Andersen の唄の世界にとけ込んでいて､Eric Andersen の唄の魅力を高めている。ちなみに Robin Batteau の一曲以外は全曲自作曲で､残りの 16 曲の内､ライヴ･アルバム{4 曲}やデジタル･アルバム{2 曲}に収録されていた 6 曲以外は全曲 Eric の新曲で､80 代になった Eric の人生経験から創作された物語。2025 作。Y&T Music)

※本 CD をご注文の皆さまに本 CD のライナーノーツの和訳と本 CD 収録の"After This Life"の歌詞{英語}を差し上げます。ライナーノーツでは Eric Andersen の音楽の魅力やハイライト曲の説明等興味深い内容で､是非読んで頂いたく{読後､おそらくもっと好きになるでしょう}､レコード会社と Eric 本人に承諾を得て､和訳しました。ハイライト曲の一曲の"After This Life"は来世のことをハッピーにうたった唄。歌詞が面白く､人によっては死生観が変わるかもしれませんよ。

*ERIC ANDERSEN:Blue River Live in Tokyo　C
(Eric Andersen が 2012 年に日本で行ったライヴ。"Blue River"なムードが立ち上る鳥肌立つライヴ。音質もよし､ライヴの雰囲気もよし､Eric Andersen のヴォーカルもよし。プロデュースは Eric 自身。14 曲。2012 年/2025 作。New Shot)

*CALVIN RUSSELL:Equal Love　C
(テキサス･オースティン出身の SSW の Calvin Russell{1948-2011}の 1997 年イタリアでのライヴ。本作はバンド編成～Spencer Jarmon{ｷﾞﾀｰ､ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ｳﾞｫｰｶﾙ}､Jim Panek{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ}､Scott Garber{ﾍﾞｰｽ､ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ｳﾞｫｰｶﾙ}､Jim Starboard{ﾄﾞﾗﾑｽ}～で､彼の持ち味である渋みのあるだみ声はバンドの南部寄りのルーツロックと一体化して､凄みがあって圧巻。Calvin のヴォーカル･スタイルは Butch Hancock や Guy Clark や Townes Van Zandt などのテキサスのフォーク系 SSW のスタイルの系統だが､かれの音楽はアウトロー的というかエネルギッシュというか､フォークの域を超えて､独自の孤高のテキサス発のフォーク･ロック/ルーツロックを果敢に体現していて圧巻。自身がかき鳴らすエレキギターがこれまた圧巻。T.V.Zandt 作の二曲を含む全 16 曲､ライヴならではの本領＋αが発揮されていて感動の度合いが深い。もっと注目されて然るべき SSW だった。1997 年/2025 作。New Shot)

*RB MORRIS:Live Shots From Jammin Hippie Jack's　　C
(テネシー州ノックスヴィル出身の詩人で SSW の RB Morris の 2010 年にテネシー州で開かれたアメリカン･ミュージック･フェスのライヴ。彼はフォーキーな SSW あると同時にロッカーでもあるが、彼の作品は John Prine,Steve Earl,Lucinda Williams 等のシンガーから評価されているという。本作はバンド編成～Kenny Vaughan{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Hector Qirko{ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ},Dave Jacques{ﾍﾞｰｽ},Paul Griffith{ﾄﾞﾗﾑｽ}～で､Bob Dylan や Leonard Cohen や Tom Waits 等からインスピレーションを得たという彼の音楽はフォーク､ブルース､ロックかつまたサイケデリックまで垣根なし。60 年代後半から 70 年代初頭頃のロックの雰囲気も。ビート詩人風の不思議な魅力の SSW だ。2013 年に出版された詩集「The Mockingbird Poems」はプッシュカー賞にノミネートされたという。2010 作/2025 作。New Shot)
*LARRY JON WILSON:Larry Jon Wilson　　C
(Larry Jon Wilson が 2009 年にセルフタイトルのアルバムを出しているのをついひと月前まで知らなかった。プロデュースは SSW の Jeb Loy Nichols と､同じく SSW で音楽プロデューサーの Jerry DeCicca の共同プロデュース。メキシコ湾を望むコンドミニアムの 15 階の部屋で､Larry Jon のギター弾き語りのみで 20 曲収録したという。その内 CD に収められたのは､三曲のメドレー曲を含め､全 16 曲。曲目は自作曲 6 曲に Bob Dylan,Paul Siebel,Willie Nelson,Mickey Newbury{2 曲},Dave Loggins{2 曲}のナムバー等。ギターを爪弾き､いつもの聴き親しんだ低音のズンと来る声でうたう彼の唄は､とてもリラックスしていて､枯淡の深い味わいがある。収録後に数曲で Noel Sayre のフィドルを重ね録り。枯れたフィドルの音色がリラックス･ムードを添えている。録音までの物語はライナーノーツに詳しい。録音は Larry Jon が 2010 年 6 月に脳卒中で急逝する丁度三年前の 2007 年 6 月。ディスクには Jeb,Jerry,Jon の三人がセイリングを楽しんでる写真。2009 作。Drag City)
※機会があれば前々から販売したいと思っていた CD です。スコットランドの Mairi Morrison & Alasdair Roberts の新作が Drag City から発売されたのに合わせて仕入れました。SSW ファン必聴！



(Tony Joe White)　　(Joni & James)

*TONY JOE WHITE:The Complete Warner Bros. Recordings
¥3980(税込み¥4268)
(二枚組。"Tony Joe White"{1971 年}と"The Train I'm On"{1972 年}と"Homemade Ice Cream{1973 年}の三枚＋シングル曲６曲の全 40 曲。2015 作。Real Gone Music)
*JONI MITCHELL & JAMES TAYLOR:Royal Albert Hall 1970　C
(Joni Mitchell & James Taylor が 1970 年 10 月 28 日､Royal Albert Hall で行った FM ラジオ音源の弾き語りライヴ。全 17 曲。これが実

に素晴らしい。その時代、つまり二人がデビューして間もない頃の二人の音楽の素の良さがシンプルに表出していて、味わい深い上に、"The Circle Game"や"You Can Close Your Eyes"では二人の温かなデュエットも聴ける。この時代の二人の音楽の輝きは永遠。1970 年/2023 作。Timeline)

*TOM OVANS:When The Dice Began To Roll C

(ボストンの労働者階級の地区出身で、2000 年前後に素晴らしい Bob Dylan スタイルの SSW アルバムを発表していた Tom Ovans の 1993 年イタリアでのライヴ。伴奏者は Doug Lancio{ギター}, Bob Kommersmith{ベース}, Lou Ann Bardash{ヴォーカル。Bob Dylan 風のだみ声とアコギ、スライド・ギター、ハーモニカの伴奏と Lou Ann Bardash のソウルフルなハーモニー・ヴォーカルは、初期 Bob Dylan 風のプリミティヴというかフォーク・ブルース色の濃いフォークだが、その味わいは Dylan より濃密。ルーツ志向であり、かつ稀有な個性派 SSW だ。全 21 曲。2025 作。New Shot}

*JAMES TALLEY:Live From The Vaults C

(オクラホマのタルサ出身の SSW、James Talley の 2002 年イタリアでのライヴ。伴奏者は DavePomeroy{ベース}, Mike Noble{エレキギター}, Gregg Thomas{ドラムス}。Woody Guthrie 作６曲と J. Talley の自作曲５曲の全 11 曲。バンド編成だが、バンドは補助的伴奏で全編ギター弾き語りの味わい。Woody Guthrie/Bob Dylan 直系のプリミティヴなフォークやブルースに根付いた彼特有の滋味豊かでいぶし銀の唄は本ライヴで最高潮。とりわけ本作は Woody Guthrie のナムバーを６曲取り上げていて、彼自身、自身の音楽のルーツに思いを馳せて丁寧に弾き語りしているように、渋く味わい深い。2025 作。New Shot}

*JEFF BLACK:Bless My Soul / Live in Italy C

(1996 年イタリアでのギター弾き語りライヴ。ナッシュビルを拠点に活動する SSW の Jeff Black のアルバムを聴くのはおそらく彼の３枚目の"Tin Lily"{2005 年作}以来。ギターの弾き語りでうたう誠実な彼の唄を聴くと「昔は良い SSW がいたなぁ」とつくづく思ってしまう。彼の唄の真っ直ぐさと清々しさに心洗われる。「Jeff Black はレナード・コーエンのバリトン瞑想とタウンズ・ヴァン・ザントのルーツ方言を持つ吟遊詩人」{レコード会社の宣伝文より}。全 19 曲。2025 作。New Shot}

*NEW RIDERS OF THE PURPLE SAGE
:Capitol Theatre Prassaic 1975 B

(1975 年 10 月、ニュージャージーのキャピトル・シアターでの New Riders のライヴ。音源は FM ラジオ{WNEW-FM}。John Dawson, David Nelson, Buddy Cage, Skip Battin, Spencer Dryden の強力ラインナップ。カントリー・ロックに勢いがあった時代の熱いライヴ。全 17 曲＋インタビュー。1975 年。2023 作。Timeline)

*LIV GREENE:Deep Feeler C

(「このアルバムは完全に自伝的です」と言うライヴ録音の本作。若き女性 SSW の Liv Greene は Emmylou Harris や Kate Wolf や Gillian Welch 等の米国の女性 SSW の伝統を受け継ぎ、見事に米国フォーク・スタイルの美しい SSW アルバムを創作。唄それぞれに心が宿っていて、彼女の情感が裏返るヴォーカルで自然に生み出されている。全てが美味。2024 作。Free Dirt)

*WILLIE WATSON:Willie Watson C

(Gillian Welch の Acony レコードから二枚のアメリカン･フォークのアルバムを出していたフォーク･シンガーの Willie Watson の七年振りの本作は、アメリカン･フォークを自身の音楽として昇華した上で、SSW として自立した唄を毅然と創作していて、その存在感ある唄は、他の米国 SSW を寄せ付けぬ見事さ。名盤。2024 作。Little Operation)

*JASON ISBELL AND THE 400 UNIT
:Live From The Ryman.Vol.2 ¥2890(税込み¥3179)
(二枚組。アラバマ出身の SSW の Jason Isbell と彼のバンドによるライヴ･アルバム。滅茶苦茶かっこいい西海岸ロック･スタイルのルーツ･ロック。2024 作。Thirty Tigers)

*VIV & RILEY:Imaginary People C
(Viv & Riley はマルチ楽器奏者で SSW の Vivian Leva と同じくマルチ楽器奏者でシンガーの Riley Calcagno の二人とも２０代半ば。二人は古いバラッドや伝統的な物語をリメイク等して、米国トラッド＆フォークを超えた独自の新感覚の音楽を活き活きと創作。2023 作。Free Dirt)

*SAMMY WALKER:Days I Left Behind C
(1986 年、Sammy Walker のイタリアでのギター弾き語りライヴ。全 19 曲。化粧なし、スッピンの Sammy Walker ソング。ギターをお伴にし、Sammy Walker 調でうたう彼の唄は優しく耳に心地よい。1986 年/2024 作。New Shot)

*GUTHRIE THOMAS:Live On Stage C
(1993 年、Guthrie Thomas のイタリアでの弾き語りのライヴ。全 11 曲。彼の誠実な唄が静寂の中、生き生きと収録されていて、ギター弾き語りフォーク･シンガー/SSW としての彼本来の魅力が 100%＋α味わえるライヴ･アルバム。1993 年/2023 作。New Shot)

*JACK HARDY:Live On Stage In Italy C
(1993 年に Jack Hardy がイタリア初公演を行ったときのライヴ。ライヴはバンド編成でメムバーは Jeff Hardy,David Hamburger, Wendy Beckerman。自身のギターに加え、ドブロ、ベース、そして Wendy のバッキング･ヴォーカルによる音楽は滋味豊かで彼の個性的な唄と一体化していて心和む。全 17 曲。1993 年/2023 作。New Shot)

*JEFFREY FOUCAULT:The Universal Fire C
(本作はライヴ録音だが、粗くも詩的なニュアンスのヴォーカルで毅然とうたう Jeffrey の孤高の唄の孤高さとバックバンドの土臭いルーツロックの見事さは、SSW アルバムの名盤クラス。2024 作。Fluff & Gravy)

*THE BURRITO BROTHERS:Together B
(嘘みたいにかっこよいカントリー･ロック。ヴォーカルもヴォーカル･ハーモニーもサウンドもあまりにも美味しすぎるワタクシ好みの常若のカントリー･ロック。2023 作。Store For Music)

*JEFFREY MARTIN:Thank God We Left The Garden C
(ポートランドの SSW の Jeffrey Martin の新作で四枚目。身震いするほどの素晴らしい SSW アルバム。2023 作。Loose Music)

*KEVIN KINNEY:Down Out Law Z
(ロックバンド"Drivin N Cryin"の創設メムバーで、R.E.M や Golden Palominos との共演アルバムで知られるフォーク･ロック/ルーツロック系ミュージシャンの Kevin Kinney の SSW として

のソロ･アルバム。ほとんどアコギの弾き語りで繊細な中にアウトロー的野心をにじませている。1994 作。Mammoth)

[CD,LP/CANADA{Trad}]



(Matthew Burne)　(Loreena McKennitt)

*MATTHEW BURNE:Stealing Time(CD)　C
*MATTHEW BURNE:Stealing Time(LP)　¥4480(税込み¥4928)

(Martin Simpson の鮮やかなギターの演奏を伴った Matthew Burne のぬくもりのあるシンギングを聴くなり､本作の素晴らしさを､おそらく誰もが予感する違いないし､その予感はずばり的中する。Martin Simpson をプロデューサーに迎え､Andy Cutting, Nancy Kerr,James Fagan 等々のイングランド屈指の演奏家との共演で英国で収録された本作は､英国圏のトラッドやバラッド{母親から教わった曲三曲を含む}を中心に Archie Fisher の曲{一曲}や自作曲{二曲}等を加えた選曲{全 12 曲}だが､創作された音楽はイングランドの質の良いトラッド風で､Matthew のぬくもりのあるシンギングと相まって､心に響くフォーク＆トラッド･アルバムとして結実している。Martin Simpson をはじめ全共演者が Matthew の心優しい唄に寄り添う演奏に徹しているのが功を奏し､一曲一曲が心に響く。ゲスト:Ennis Sisters{"Dream For Me"での愁いのあるハーモニー･ヴォーカルが素晴らしい}。カナダの最東端ニューファンドランドにこれほど素晴らしいトラッド･シンガーがいたとは！2025 作。 MBST004)

*LOREENA McKENNITT:The Road Back Home　C

(Loreena McKennitt が 2023 年の夏､カナダのオンタリオ州で開催された四つのフォークフェスのライヴ音源からのコンピレーション･アルバム。フェスにはケルティック･バンドの"The Bookends"とチェロ奏者の Caroline Lavelle が同行。"As I Roved Out"や"The Star Of The County Down"や"Si Bheag Si Mhor"や"Wild Mountain Thyme"等のトラッドの名曲を彼女らしいケルティックな幽玄さで創作。2024 作。Quinlan Road)

[CD+DVD/BRITAIN(SSW 系)]

※DVD は国内プレイヤーで再生可能。



(Al Stewart)　(John Martyn)

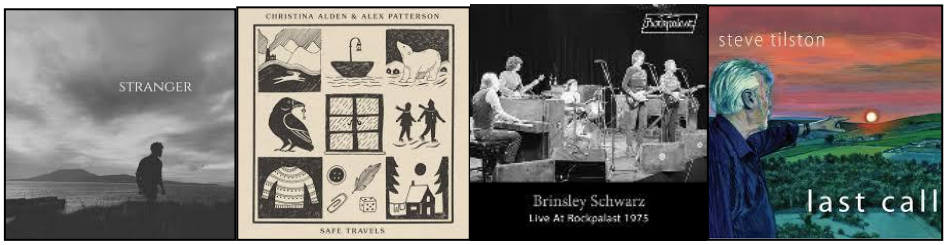
*AL STEWART:Live at Radio Bremen TV　E

(1979 年の Radio Bremen の番組"Musikladen"での Al Stewart with Band～Peter White{ｷﾞﾀｰ},Robert Alpert{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ}, Krysia Christianne{ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ｳﾞｫｰｶﾙ､Harry Stinson{ﾄﾞﾗﾑｽ｡ Leon Russell,Bob Dylan,Neil Diamond 他のドラマー}～のライヴ｡Al Stewart の甘みのあるヴォーカルと南部ロック風ロックとが一体化した圧巻のライヴ｡Al Stewart の名曲"Year Of The Cat"では大喝采｡耳と目でお楽しみ下さい｡1979 年/2025 作｡MIG)

*JOHN MARTYN:Live At Rockpalast 1978 E

(1978 年のドイツの音楽番組"Rockpalast"での John Martyn の白熱のギター弾き語りライヴ｡シンガーとしてもギター奏者としても最も脂がのっていた時代のライヴで徹頭徹尾エネルギッシュ｡1989 年録音のボーナス･トラック"Look At That Girl"を含む全 12 曲｡DVD は 1 時間 13 分｡耳と目でお楽しみ下さい｡1978 年/1989 年/2024 作｡MIG)

[CD/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]



(Niall McCabe) (Christina & Alex) (Brinsley Schwarz) (Steve Tilston)

*NIALL McCABE:Stranger D

(メイヨー沖のクレア島出身の SSW の Niall McCabe｡本作は彼の二作目｡家族がパブを経営していたという｡アイルランド出身の SSW としては近年ではピカー｡Paul Brady や Van Morrison のヴォーカルのニュアンスを保持した彼のヴォーカルはすこぶる魅力的な上に､島の生活を反映した唄の数々は､島の空気感とともに感情移入が豊かで､深く心に響く｡加えてプロデューサーの Sean Óg Graham の､Niall のギター弾き語りにペダルスティールを織り交ぜながらフィドル､アコ､パイプ等と調和を図った音作りとトラッド､フォーク､ロック混在の音作りは見事で､Niall のシンガー＆ソングライターとしての類い稀な才能を見事な手腕で際立たせている｡ラストを飾る"I'm Wrong"などは Van Morrison がじっくりとギター弾き語りした風で感涙｡2025 作｡Niall McCabe)

*CHRISTINA ALDEN & ALEX PATTERSON:Safe Travels D

(Christina{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｷﾞﾀｰ､ﾊﾞﾝｼﾞｮｰ､ﾃﾅｰｷﾞﾀｰ} & Alex{ｳﾞｫｰｶﾙ､ﾌｨﾄﾞﾙ､ﾃﾅｰｷﾞﾀｰ､ｳﾞｨｵﾗ}の若夫婦の全てを抱きしめたくなるような何とも愛おしい"ブリティッシュ･フォーク"なデュオ･アルバム｡ジャケットにもブックレットにもディスクにも英国の自然豊かな地で家族三人で暮らす Christina の手描きの心温まるイラスト｡プラスティックなしのホームメイドなジャケット｡全曲二人の作詞作曲で､二人は身の回りの自然や生き物や環境問題や家族のことなどをアコースティック楽器を軽やかに奏で､主に Chrisina がリード･ヴォーカルを取って､Alex がハモる｡素朴だが芯のしっかりした Christina のヴォーカルと夫妻の魅惑のヴォーカル･ハーモニーは 70 年代ブリティッシュ･フォークの芳

香を醸し出していて、心温まる歌詞とともに親近感を増す。プレゼント用にも良さそう。1000 枚限定盤のようで通し番号が手書きされている。バーコードに鳥が･･･。2025 作。Folk Cellar)
※ご注文の皆さまに Christina のイラスト入りの 2025 年のツアー･スケジュール･カードを差し上げます。「すでに今年のベスト･アルバムの有力候補」(KLOFmag)
*BRINSLEY SCHWARZ:Live At Rockpalast 1975 D
(Nick Lowe,Brinsley Schwarz,Ian Gomm,Bob Andrews,Billy Rankin から成る Brinsley Schwarz の 1975 年ドイツの音楽番組"Rockpalast"でのライヴ。「解散の年のか。Brinsley はもう良い」と思いながら耳を傾けたら、これがメチャ最高。「英国のザ･バンド」と言われたが、本作はまるで「英国の Eggs Over Easy」。ライヴの勢いもあろうが、ヴォーカルも彼ら特有のアメリカン･ロックなブリンズレー･サウンドも最高に輝いていて、手に汗を握る。こんな一体感のある音楽を体現していた彼らが同じ年に解散するとは･･･。解散前の打ち上げ花火？全 13 曲。1975 年/2025 作。MIG)
*STEVE TISTON:Last Call B
(1971 年のデビュー･アルバム"An Acoustic Confusion"から 54 年目の年に発表された御年 75 歳の Steve Tilston の新作。ギター青年だった時代を思い起こさせるようなブルースやフォークの香りを放つ鮮やかなギター･プレイと力強く朗々たるヴォーカルはルーツ回帰的であると同時に齢を重ねた熟達感があって、聴き応え充分。ラスト･アルバムを匂わすタイトルとは縁遠い充実作。2025 作。Talking Elephant)
*LIZ OVERS:Nightjar C
("Cruel Sister"などトラッド曲４曲を含む本作は、1970 年代のブリティッシュ･フォークの不可思議な魅力の世界を旅するような感覚を抱かせる魅惑のブリティッシュ･フォーク。Liz は本作で自然、季節、伝説、幽霊、妖精などについてうたっていて、彼女のか細く麗しいヴォーカルと Neill MacColl{Ewan MacColl の息子}と David Tomlins の各種ギターの神経の行き届いた美麗な伴奏と人気のベース奏者 Ben Nicholls の深みのある伴奏は独創的で完全無欠。Liz のオリジナル曲はどの唄も詩的で想像力に富んでいる。ピカー。2024 作。Liz Overs)
*RALPH McTELL AND WIZZ JONES:About Time A
(2016 作。Leola Music)
*WIZZ JONES,PETE BERRYMAN & SIMEON JONES
:Come What May(2017 作。Riverboat) A
※Wizz Jones が 2025 年 4 月 27 日に亡くなりましたね。合掌。
*THOM ASHWORTH:Head Canon A
(Folk Radio は「現代の Martin Carthy」と絶賛するイングランドのトラッド･シンガーの Thom Ashworth の 2019 年作。トラッドの名曲"High Germany"で幕開けする本作は、Thom の揺るぎないシンギング、それも荒野に立ち、遙か彼方に向かってシンギングするかのような見事なシンギングに骨抜きにされる。渋いフィドルの伴奏であろうが、無伴奏であろうが、またフォークロック調であろうが縦横無尽。Thom Ashworth)
*IAIN MATTHEWS & AD VANDERVEEN
:Greetings From Grolloo C

(2003 年 3 月 1 日､Iain Matthews とオランダの SSW の Ad Vanderveen の共演ライヴ｡Iain Matthews の音楽は SSW の原点に戻ったかのような､ギターの弾き語りによる素直な唄ばかり｡Ric Sanders が二曲で飛び入り共演｡2003 年/2024 作｡Radz)

*JASON O'DRISCOLL:Dharma Z

(アイルランドの SSW の Jason O'Driscoll の 2003 年作｡素直で緩やかな唄が心地よい｡2003 作｡Jason O'Driscoll)

*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow Z

(Naomi の声の響きは白人系アメリカン･ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが､土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの｡2011 作｡Dusty Willow)

*PAUL MILLNS:Unsang Heroes Z

(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム｡1998 作｡April Music)

*ALISON O'DONNELL:Climb Sheer The Fields Of Peace Z

(Mellow Candle の Alison O'Donnell の 2017 年作｡Mega Dodo)

[CROPREDY FESTIVAL の T シャツ]



*ROGER DEAN CROPREDY T SHIRT - NAVY BLUE(サイズ M) C

(毎年 Fairport の主催で行われているクロプレディ･フェスティヴァルのオフィシャル T シャツ｡在庫僅か)

[CD/FAIRPORT&FRIENDS]



(Fairport)



(GPs)



(Ashley Hutchings)

*FAIRPORT CONVENTION:A Live Recording - UK Tour October 2023 D

(2000 枚限定盤｡Chris Leslie{収録時 68 歳),Dave Pegg{77 歳},Ric Sanders{71 歳},Simon Nicol{72 歳)から成る高齢者バンド Fairport のアコースティック･ライヴ｡Crosby Stills & Nash を彷彿させるさわやかハーモニーといい､軽快な唄といい､ダンサブルな軽快サウンドといい､その若々しく爽やかな音楽に気分爽快｡今になって初めて Fairport のドラムス抜き音楽の魅力を知った｡ラストは"Who Knows Where The Time Goes",
"Matty Groves","Meet On The Ledge"の名曲メドレーで幕｡Fairport は今が{も}青春！？裏ジャケの集合写真がまた楽し

い。全 17 曲。2024 作。Matty Grooves)
*THE GPS:In 1981 There Was...Live In Concert B
(Ralph McTell,Richard Thompson,Dave Pegg,Dave Mattacks から成る GPS{ゲスト:Mike Piggott、アナウンス:Ashley Hutchings}と呼ばれたスーパー・グループの既発表アルバム "The GP's"{1991 年リリースの 1981 年のライヴ}収録曲に未発表音源曲６曲を加えた全 20 曲収録の発掘コンピレーション盤！音楽スタイルはアメリカ志向のブリティッシュ・フォーク・ロック～パブロック。皆さん活き活きした唄と演奏で、青春時代回帰のお楽しみ会的ライヴ・ミュージック。古い音源をクリーンアップしてリミックス。Ralph McTell と Dave Pegg は「GPS の音源はどこで見つけたんだ？素晴らしい音だ」と驚喜したとか。P14 の詳細解説ブックレット。1981 年/2025 作。Talking Elephant)
*ASHLEY HUTCHINGS:Million Dollar Ash B
(Ashley Hutchings の新作は 80 歳記念に発売されたコンピレーション・アルバム。全 16 曲。ゲートフォールド・ジャケット仕様{簡易ジャケット}で裏ジャケットのクレジットには"Special Compilation･･･"と曲目のみ。情報があまりに少ないので、レコード会社に頼んで、音源データを送ってもらいました。その音源データをタムボリンで整理したものをお付けします。「このリリースは、彼の最も好きな作品のいくつかを反映したかなり個人的なコンピレーションであり、また一緒にプレーしている息子のブレアと、アシュリーのサッカーへの愛も反映されています」とのこと。2025 作。Talking Elephant)
*THE GUV'NOR'S BIG BIRTHDAY BASH:Live In Concert A
(Ashley Hutchings の 50 歳誕生日記念盤。金色のブックレットの表紙裏表に少し黒っぽい斑点数カ所。1995 作。HTD)
*ANNA RYDER:Pockets On Fire A
(Anna Ryder は感性豊かで個性的な女性 SSW。バックを務めるのは Fairport Convention{Dave Pegg,Gerry Conway,Simon Nicol, Ric Sanders,Chris Leslie,Gerry Conway}の面々他。Produced by Dave Pegg, Nark Tucker and Anna Ryder。1999 作。Woodworm)
*ALISTAIR HULLETT & DAVE SWARBRICK:The Cold Grey Light Of Dawn(1998 作。Musikfolk Limited) B
*DAVID CARROLL AND FRIENDS:Bold Reynold B
(David Carroll と Fairport&Gryphon の選抜メムバーとによる David Carroll & Friends の一枚目。David Carroll の心優しい人間性と Fairport や Gryphon の音楽への愛が詰まった心豊かなフォーク・ロック。2023 作。Talking Elephant)
*SIMON NICOL & RIC SANDERS:Greetings From Grollo B
(2003 年 3 月 1 日オランダでのライヴ。Ric Sanders のフィドルの演奏が付いた Simon Nicol のギター弾き語りの曲を中心に Ric Sanders のフィドルと Ric Sanders のギターのジャンルを超えたデュエット曲を加えた構成。2003 年/2024 作。Radz)
*SDP:Vol Two B
(SDP{Sandy Denny Project}は Tradarr の Marion Fleetwood, Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens＋Sally Barker{再結成 Fotheringay,Poozies}のスーパー・フォーク・ロック・バンド。本作は二枚目で、Sandy Denny ソングを Tradarr 流に新たな英国

フォーク･ロックで創作したもの。Fairport,Fotheringay ファン必聴！2024 作。SDP)
*TRADARR:Cautionary Tales B
(Sandy Denny Project の Marion Fleetwood,Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens に Gregg Cave,Guy Fletcher,Brendan O'Neill の七人組フォーク･ロック･バンド"Tradarr"の 2015 年のデビュー･アルバム。彼らが体現するのは"Liege & Lief"をベースにした今の時代のオリジナルな英国フォーク･ロック。ゲスト: Dave Pegg,Chris Leslie,Rick Sanders,Jerry Donahue。Hedge Of Sound)
*LITTLE JOHNNY ENGLAND
:Greetings From Grolloo ¥2890(税込み¥3179)
(二枚組。Fairport/Fotheringay スタイルのフォーク･ロック･バンド"Tradarr"、"SPD"のリーダー格 PJ Wright 率いるフォーク･ロック･バンド"Little Johnny Enland"の 2003 年､オランダでのライヴ。メムバーは PJ Wrigh,Gareth Turner,Guy Fletcher,Mat Davies{ﾍﾞｰｽ},Edd Frost{ﾄﾞﾗﾑｽ}。Fairport スタイル＋モリス･ダンスの影響を受けた滅茶苦茶かっこいいフォーク･ロック。P16 のブックレット付。全 20 トラック。2003 年/2024 作。Radz)
*LITTLE JOHNNY ENGLAND:Little Jonny England A
(最高。2001 作。Fellside)
*LITTLE JOHNNY ENGLAND:Mercs & Cherokees A
(最高。2001 作。Fellside)

[CD/ENGLAND]
*JACKIE OATES AND JOHN SPIERS:A Midwinter's Night C
(Jackie Oates & John Spiers による本作は､クリスマス期の伝統的な祝祭の歌と曲を集めたクリスマス･アルバム。今やイングランドのトラッド界を代表する Jackie のシンギングはイングリッシュ･トラッド的に理想的な味わいで美しいし､二人のハーモニー･ヴォーカルを含め､Jackie のリコーダー又は弓奏楽器と John のジャバラとのコラボは心を通わせてあって神業的に絶妙。モリス･ダンスの曲調を含め､ふくよかな英国トラッド調のトラッドは Chris Wood & Andy Cutting のふくよかな英国トラッドを想い起こさせる。名盤誕生。2024 作。Needle Pin)
*JON BODEN & THE REMNANT KINGS:Parlour Ballads C
(Jon Boden の新作はビクトリア朝時代に全盛期を迎えたパーラー･ソング{バラッド}をタイトルしたアルバム。フォーク･ソングとしてピアノを奏で､やや感傷的に朗々とうたう。感動はジャンルを超える。Produced by Andy Bell。11 曲。2024 作。Hudson)
*JON BODEN:Songs From The Floodplain A
(デラックス･エディション限定盤。2009 作。Navigator)
*CHRIS MANNERS:Bar Doors And Bang The Shutters Down C
(英国の SSW でギター奏者の Chris Manner の四枚目。1970 年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク･シンガーが産声を上げ､20 世紀後半の英国フォーク･シーンを盛り上げてきたが､彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて､時代錯誤感に襲われる。それほど彼のシンギングとギターは英国フォークのコアの魅力を純粋に保持していて､その上で独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花

開かせている。15曲。ゲスト:Jon Loomes。2024作。99YRCD04)

*HOME SERVICE:A Live Transmission C

(今年で結成45周年を迎えたHome Serviceの何と8年振りの新作。本作は今年の３月に行った三つのライヴ音源からのライヴCDで、メムバーは大きく入れかわって、John Kirkpatrickもいなくなって、かつてのメムバーはエレキギターのGraeme Taylor{Gryphonでも活動}とドラムスのMichael Gregoryのみ。特筆すべきはヴェテラン・トラッド・シンガーのBob Foxがリード・ヴォーカルでフロントに立ったこと。Bob FoxはHome Service円熟のフォーク・ロックの真ん中で堂々たるシンギングを披露する。2024作。Talking Elephant)

*HOME SERVICE:Live 1986 A

(John Tamsがリード・ヴォーカルのHome Service全盛時の1986年ケンブリッジ・フォークフェスでのライヴ。1996年/2011作。Fledg'ling)

*STEVE TURNER:Curious Times C

(これぞイングランドのトラッドの真骨頂！と豪語したくなるヴェテラン・トラッド・シンガーでコンサーティーナ奏者Steve Turnerの新作。通算９枚目。自身が奏でるコンサーティーナをお伴にゆるくコブシの利いた何とも味わい深いシンギングは、齢を重ねた心あるシンガーのみが体得できる味わいだろう。w.Martin Carty,Moira Craig,Rob van Sante,Liz Turner,Allan Rose,Rikki Gerardy。全13曲。2023作。Tradition Bearers)

*THE ROSIE HOOD BAND:A Seed Of Gold C

(偽りの愛の物語"The Swallow"で幕開けするRosie Hood Band～Rosie Hood{ヴォーカル、ギター、ウクレレ、フィドル}、Nicola Beazley{フィドル、ヴォーカル}、Rosie Butler-Hall{フィドル、ヴォーカル}、Robyn Wallace{メローディオン、パーカッション、ヴォーカル}～の新作はイングランドの美しき女性トラッド・シンガー・アルバムの魅力に充ち満ちていて、心奪われる。2023作。Little Red)

*NICK HART & TOM MOORE:The Colour Of Amber D

(トラッド・シンガーのNick HartがNick Hartの各ソロ・アルバムでエンジニアリング等を担当していたTom Mooreがヴィオラとハーモニウムの演奏で共演。Nickはフォーク・リバイバル以降に陽の目を見たイングランドの豊富なトラッド曲からお気に入りの曲を英国トラッド調で朗々とシンギングするのだが、音楽は中世・ルネサンス音楽調。「このデュオによる最初のアルバムはここ数年の他の英国の伝統的なアルバムよりもはるかに優れている」{folkradio}。2023作。Slow Worm)

*THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER C

(コンサーティーナ奏者でモリス・ダンサーだったWilliam Kimber{1872-1961}の未発表曲多数含む32曲収録マルチメディア機能付CD。２冊の解説書付。1999作。EFDSS)

*NICK WYKE AND BECKI DRISCOLL:A Handful Of Sky A

(男女の二人組のNick & Beckiによる2014年作。双方がイングランドのトラッド・シンガーとして魅力的なシンギングを聴かせる上に二人がデュオで奏でるダンサブルなフィドルが新鮮で快い。またヴィオラに持ち替えれば重厚感が生み出される。イングランドのトラッドの気品と香りに満ちた英国トラッドの快作。WildGoose)

*PETE CASTLE:False Waters Z
(フォーク蒐集家＆研究家でトラッド･シンガーの Pete Castle の 1995 年作。イングランドを中心にアイルランドや英国のトラッド/バラッドをギター等の弾き語りを中心に家族他と演唱した本作は「これぞイングランドのトラッド！」の輝きを放っていて感涙。14 曲。Steel Carpet)
*BOB PEGG:The Last Wolf Z
(元 Mr.Fox で元妻の Carole Pegg や Nick Strutt との共演盤が素晴らしい Bob Pegg の 1996 年作のソロ二枚目。本作は前作から 20 年の間の成果を厳選してまとめたアルバムで、曲のテーマは様々だが Bob Pegg の不思議な物語の世界へ誘うのに適したヴォーカルは最高潮で、見事に Bob Pegg 流ブリティッシュ･フォークの世界を創作している。ゲスト:Chris Coe。Rhiannon)

[CD/SCOTLAND]

*FIONA SOE PAING:Sand,Silt,Flint C
(アヴァン･フォーク{avant-folk}の実験家で歌手と自ら呼ぶ Fiona の本作はスコットランドのバラッドや古代の物語を題材にして、自己流に創作した夢想的音楽。彼女のヴォーカルは夢うつつな表情で、電子音とチェロ、クラルサッハ、フィドル、ギター、クラリネット、ドラムスによるスコットランドの音楽を融合した音楽はとてもユニークで、別世界に誘われる気分。ジャケットには唄の舞台になった地がスコットランド北東部の地図で指し示されている。2022 年/2024 作。CSFSPCD2024401)
*ATOMAIG PISEAG:Direach Purr-fect C
(Atomaig Piseag は女性合唱団として 10 本の指では数え切れないほどの受賞歴を誇る実力派の女性ゲール語合唱団。本作は合唱団の二枚目。ゲール語の合唱団としてはアイルランドの Anuna が有名だが、彼らほど高度に洗練されてはいない。彼女たちの合唱はスコットランド･ゲール語の伝統歌の素朴な美しさと味わいを保ちつつ、伝統歌を現代的に解釈し、様々な合唱スタイルを考案し、革新的な合唱を創り出している。カラフルで美しくかつ楽しく、爽やかで力強くもある。全 12 曲。2024 作。Sradag Music)
*TRAIL WEST:Thirsty Work D
(西ハイランド地方とその島々の出身者から成る六人組フォーク･ロック･バンド"Trail West"の新作で通算五枚目。ダンスの躍動感をロックの方向に洗練していったかのようにダイナミックなスコティッシュ･スタイルのフォーク･ロックを体現していて圧倒される。二人の男性シンガーは、いかにもスコティッシュ･シンガーらしい堂々たるヴォーカルでこれまた圧巻。2024 作。TW)
*UP IN THE AIR:Moonshine A
(Up In The Air は、Old Blind Dogs の創設メムバーの二人の Jonny Hardie{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}と Davy Cattanach{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ､ｷﾞﾀｰ､ｳﾞｫｰｶﾙ}に Iron Horse の Gavin Marwick{ﾌｨﾄﾞﾙ}のスーパ･トリオによる 2012 年のアルバム。スコティッシュ臭の強い Dave のシンギングが素晴らしく、全体として Old Blind Dogs の核の音楽的な印象で、琴線に触れる音楽を自在に創作している。
Up In The Air)
*COAST:The Turning Stone Z
(Runrig クラスのフォークロック･バンド。Paul Eastham のヴォ

ーカルも抜群。ゲスト:Duncan Chisholm。2011 作。Ruabhal)

[CD/SCOTLAND,NOVA SCOTIA]

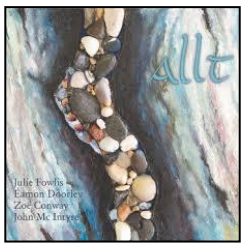


(Mairi & Alasdair)

*MAIRI MORRISON & ALASDAIR ROBERTS:Remembered In Exile C

(副題"Songs And Ballads From Nova Scotia"。本作はスコットランドの劇作家でゲール語シンガーの Mairi Roberts とスコットランドを代表するトラッド･シンガーの Alasdair Roberts の二人による 13 年振りの二作目。二人はカナダのノヴァスコシアに渡り、民俗学者の Helen Creighton{1899-1989}がカナダで収集したスコットランドにルーツを持つ伝統歌集をカナダのミュージシャンと収録。ゲール語と英語混在で、Mairi の清々しく甘みのあるシンギングと Alasdair の力を緩めたゆるい{このゆるさが彼独特なトラッドの味わいを醸し出している}のそれぞれのシンギングとデュエットは、そよ吹く風のように心地よく、軽いタッチのフォーク･ロック･サウンドを伴って、軽く躍動的で、歴史絵巻の世界に誘われる気分になる。ラストはイアンとシルヴィアの録音で有名な"The Soldier's Adieu"でもの悲しく幕。解説付。2025 作。Drag City)

[CD/SCOTLAND,IRELAND]



(Allt)

*ALLT:Allt C

(Vol.II が大人気の Julie Fowlis & Eamon Doorley{Danú}夫妻, Zoe Conway & John McIntyre 夫妻から成る Allt の一枚目。2018 作。Machair)

※円形ホールでライヴ録音された"Allt"はスコットランドとアイルランドの古今東西のゲール語詩にインスピレーションを得た作曲プロジェクトの集大成です。感情豊かで力強いメロディーと思慮深く理解力のある伴奏が組み合わさって、このアルバムはライヴパフォーマンスの精神とエネルギーを捉えています。(Julie Fowlis の HP より)

[CD/IRELAND 系]

デジパック･タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。

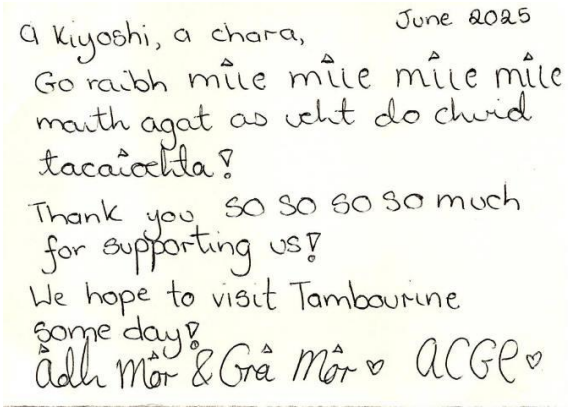


(Etain & Maire)

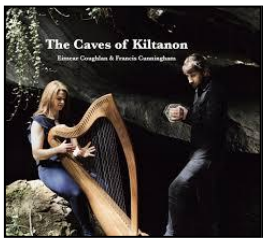
*ETAIN & MAIRE Ní CHURRAOIN:Cá'il an Bheirt? E

(カウンティ・ミースのゲール語地域出身の Etain & Maire 姉妹のデビュー・アルバム。姉妹の大叔父は偉大なシャン・ノース・シンガーの Darach Ó Catháin。Darach は姉妹にとって大きな誇りで、大叔父のシンギングは大きなインスピレーションの一つと言う。また同じゲール語シンガーのラーサリーナ{本作では彼女のヴァージョンを二曲}に大きな影響を受けたとも。本作はガチガチのトラッド・アルバムではない。本作で Lumiere のヴァージョンを採り上げているが、いわば Lumiere 風の女性デュエットが美しい優美なアイリッシュ・シンギング・アルバム。失恋や離別など悲哀の伝統歌を多く含むのに加えて、Nathan Grant{ｷﾞﾀｰ}, Cathal Ó Curráin{ﾌﾞｽﾞｰｷ}, Jack Warnock{ｷﾞﾀｰ}による二人に寄り添う伴奏{ヴォーカルとのバランスも良い}が二人の美しいソロ＆ハーモニーの優美さを高めている。胸キュン。2023 作。An Chead Ghluin Eile)

※某音楽雑誌で「Instagram 約 2 万人、TikTok1 万 8 千人以上のフォロワー。中には数十万人の視聴者に届けられた動画も。シャン・ノースを国際的に届ける手段」と答えている記事を読んで、姉妹のことと本作のことを知りました。少し遅れての販売です。



↑Etain & Maire から届いた小包を開けると、ゲール語と英訳のメッセージが入っていました。







(Eimear & Francis) (Li Ban) (Mick & Shane)

*EIMEAR COUGHLAN & FRANCIS CUNNINGHAM
:The Caves Of Kiltanon E

（クレア出身のハープ奏者のEimear Coughlanと同じくクレア出身のコンサーティーナ奏者のFrancis Cunninghamの若き伝統音楽家による夫妻名義のデビュー･アルバム。Eimearの祖父はTulla Ceili Bandの創設メンバーでアイルランドを代表する名フィドル奏者のPaddy Canny。アイリッシュ･ハープとコンサーティーナのソロ＆デュエットの音楽として、かつクレア発アイリッシュ･ミュージックとして感動的。それは演奏する曲がPaddy Cunnyの演奏{一曲目とラスト曲を含めPaddyのレパートリー数曲}やアイリッシュの音盤やオニールの楽譜本で親しんだ曲だったり、一曲一曲に深い愛情が込められているからだろう。夫妻ともにそれぞれの楽器部門のオール･アイルランド･チャンピオン{複数回}だが、演奏は気分がホッコリするほどクレア･スタイルで暖かい。アイリッシュではないスコットランド人作曲の曲{Phil Cunningham作"The Wedding"}が一曲。2022年、二人の結婚式で二人が演奏した曲だという。この曲は前半がハープのソロで後半にコンサーティーナがゆるく重なる涙なしには聴けない美しい曲。本作はEimearの祖父のPaddy Cunnyに捧げられている。彼女はフィドルも少し演奏していて、そのフィドルは祖父のフィドル。二人はクレア音楽の素晴らしき継承者。2025作。CC0001）

*LI BAN:Rud Nach Léir D

（泣けるほどいぶし銀のアイリッシュ･トラッド。本作はトラッド･シンガーでギター奏者のRioghnach Connollyが親族に声を掛けて制作した「アイルランドの古代アルスター地方、ラフ･ネイ湖とバン族の伝統を古き良き時代を偲びつつ、新たな伝統的音楽を創造」したアルバム。「Li Banという名称はこの湖の精霊で女神アン･バンナに由来し、Li Banは湖の伝説の人魚」とのこと。演奏楽器はギター、フィドル、金属弦ハープ、バウロンで、音楽はアットホームな雰囲気の素朴なアイリッシュ･サウンド。そんな音楽を伴って、女性中心だが、お年寄りを含む女性と男性が入れ替わり立ち替わりシンギングする。シンギングも音楽も素朴だが、アイリッシュの伝統音楽の味わいが醸し出されていて、アイリッシュ･ファンなら、「心のふるさと」的に感慨を覚えること必至。滅多にお耳にかかれない貴重なアイリッシュ。金属弦ハープの伴奏曲は数世紀前のアイルランドに誘う。曲目解説ビッシリ。2025作。Li Ban）

*MICK MULVEY & SHANE MEEHAN:The Missing Guest E

（フルートとフィドルの演奏において、北コナハトの名手達の演奏を彷彿させるフルートとフィドルによる最高レベルのアイリッシュ･ミュージック。ゲスト:John Blake,Joe Kennedy.Matt Mulvey。10年以上の共演経験を経て創作された至福の全15トラック{42曲}。2025作。(Coolathma CD3)

※"The Missing Guest"はそれぞれの楽器を熟知したミュージシャンによる素晴らしい演奏が収録されています。このアルバムは美しく繊細な伝統音楽への共通の愛情。そしてデュエットとしての心地よさと互いへの敬意を如実に表しています。数々の喜びに満ちたソロは音楽に精通したこの二人の技量をさらに際立たせています。(Karen Ryan)

*MICHELLE MULCAHY:Lady On The Island E

（再入荷。2022作。Michelle Mulcahy）

*LAOISE KELLY:Ceis(再入荷。2010 作。Laoise Kelly)　　E
*KATHLEEN LOUGHNANE:Harp To Heart　　E
(再入荷。2005 年作。Reiskmore Music)
*DANU:The Pearl Album　　¥3580(税込み¥3938)
(副題"Live In Celebration"。1995 年結成の Danu の結成 30 周年記念の二枚組ライヴ盤。30 周年に合わせて 30 トラック{54 曲}収録。2000 年作の彼らの二枚目"Think Before You Think"{1997 年作の一枚目を聴いたのはかなり遅れて}以来、名実とものアイリッシュ・ミュージックのトップ・グループとして名を馳せてきた彼ら。その熟達した音楽を矢継ぎ早に聴かせ、聴き手を手玉に取る。評価するのがおこがましく思えるほど。前作より Muireann Nic Amhlaoibh に代わって加入したコークのゲール語地域出身のシャンノース・シンガーの Nell Ní Chróinín のシンギングがこれまた素晴らしい。現役の全女性トラッド・シンガーの中でも屈指。アイリッシュ・ファン至福保証。2025 作。Danu)
*DANU:All Things Considered(2002 作。Shanachie)　　B
*DAIRE BRACKEN & LORCAN MacMATHUNA:Preab Meadar　　B
(ゲール語シンガーの Lorcan MacMathuna と Slide の創設メムバーで元 Danu のフィドラーの Daire Bracken のデュオ・アルバム。本作は 600 年から 1600 年のゲール語の詩を源泉とした自作曲とその時代の詩に曲を付けたもので、Lorcan シンギングやリルティングは過去に生きた人びとの魂の歌声にも聞こえる。また相方 Daire の演奏は唄の伴奏を超えた即興的演奏で、響き合っていて、感動的。2014 作。DBLM01)
*THE HALF ROOM:The Half Room　　D
(Half Room は Lumiere の Pauline Scanlon とアイリッシュ・ヴォーカル・トリオ"Whileaways"の Nicola Joyce の二人の女性シンガーと、シンガーでナイロン弦ギター奏者の Eoin Wynne とシンガーで金属弦ギター奏者の Fabian Joyce の二人の男性シンガー＆ギター奏者の四人組ヴォーカル・グループ。2024 作。
The Half Room)
*CUAS:Cuas　　C
(Cuas は Seamus Begley の娘の Méabh Ní Bheaglaoich{ヴォーカル、アコ}, Nicole Ní Dhubhshláine{コンサーティーナ、フルート}, Niamh Varian-Barry {ヴォーカル、フィドル他}, Kyle Macaulay{ギター、ブズーキ}から成るアイリッシュ・グループ。アイリッシュなライヴ感に充ち満ちていて、大盛り上がり。Méabh のゲーリック・シンギングの二曲と Méabh & Niamh のデュエットの一曲の計三曲はアイリッシュ・トラッド・シンギングは清楚なシンギング
で感動的。2024 作。Cuas)
*ELIXIR:Elixir　　C
(録音は 1983 年 10 月と 1984 年３月。本作はブルターニュのシンガーでティンホイッスル、フルート奏者の Pol Huellou の呼びかけで集まったミュージシャンによるセッション・アルバム。集ったのは Liam Weldon{ヴォーカル}, Sean Howley{ブズーキ}, Brian O'Donoghue{ギター}, David Hopi Hopkins{バウロン}の四名。呼びかけ人の Pol Huellou のティンホイッスルの演奏が素晴らしく、ブズーキ、ギター、バウロンの演奏も誘発されるように見事な演奏を繰り広げる。Liam Weldon の貴重シンギング二曲収録。1984 年/2021 作。Goasco Records)

*THE USHER FAMILY
　:Traditional Singing From County Louth　A
(Mary Ann Carolan{1902-1986}、弟の Pat Usher{1912-1988}そしていとこの Petey Curran{1896-1980}の Usher Family の 1974 年収録の音源から制作された貴重なアイリッシュ・トラッド・アルバム。全 22 曲。2014 作。Rossendale)
*BIRKIN TREE:Virginia　A
(Niamh Parsons と Cyril O'Donoghue がゲスト参加の Birkin Tree の 2003 年のアルバム。Felmay)
*BIRKIN TREE:Virginia　A
(Martin Hayes & Dennis Cahill がゲスト参加の Birkin Tree の 2010 年のアルバム。Felmay)
*BIRKIN TREE:Five Seasons　A
(Aoife Ni Bhriain がゲスト参加の Birkin Tree の 2019 年のアルバム。Felmay)
*PAT McNAMARA:The Two Sides Of Pat Mac　B
(Tulla Céili Band のアコーディオン奏者だったというクレアのアコ奏者 Pat McNamara のソロ。前半７トラック{10 曲}がアイリッシュで後半６トラックが"Continental"。こんな早い演奏でダンスできるの?!とつい思ってしまう Pat の早弾きは、もの凄い。カセット・アルバムの 2018 年再発。Trad Ireland)
*CILLIAN VALLELY & DAVID DOOCEY:The Yew & The Orchard C
(Lunasa のイリアンパイプス奏者の Cillian Valley と Grada のフィドル奏者の David Dooce のデュオ・アルバム。ふたりが奏でるアイリッシュの見事さは言葉を失うほど。イリアンパイプスとフィドルによるアイリッシュの魅力が詰まっている。全てが超一流。Sean Og Graham の巧妙なギターもお見事。2023 作。Cillian Vallely & David Doocey)
*TEADA:Coisceim Coiligh　B
(ゲストに Séamus Begley{4 曲参加]を迎えて制作された Teada の結成 21 周年を祝う 2022 年作。フィドル、ボタン・アコーディオン、フルート、ギター、ブズーキ、バウロン、キーボードによるアイリッシュは音楽が多彩でスローテンポからミディアムテンポそしてアップテンポまで縦横無尽。その職人芸は驚くばかり。さらに生前最後の録音記録と思われる Séamus Begley の柔和なゲーリック・シンギングが涙を誘う。最高のアイリッシュ！Gael Linn)
*THE LARK ON THE STRAND:The Lark On The Strand　C
(本作は 2000 年一月に Sesoaimhín Ní Bheaglaíoch{Macalla/ヴォーカル}, Charlie Piggott{De Danann/アコ}, Peter Browne{1691, Bothy Band [Paddy Keenan の代役] /イリアンパイプス}, Gerry Harrington{フィドル}が"The Lark On The Strand"の名でアイルランド・ツアーをしたときのライヴ・アルバム。全 34 曲！2000 年/2022 作。LOTS001CD)
*LILLEBJORG NILSEN ・ ANDY IRVINE:Live In Telemark　C
(本作は 1994 年にノルウェーのフォーク・フェスでの Andy Irvine とノルウェーの SSW の Lillebjorn Nilsen の共演ライヴ。2020 年作。Heilo)
*PADDY KEENAN・TOMMY O'SULLIVAN:The Long Grazing Acre　Z
(Bothy Band の創設メムバーでにイリアンパイプ奏者の Paddy Keenan とギリスト兼シンガーの Tommy OSullivan のコラボ・アル

バム。2001 作。Hot Conya)
*TOMMIE CUNNIFFE:Unbuttoned Z
(ロスカモン出身のアコ奏者の 2007 年作。クレアとゴールウェイ曲が多いが、飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロディーとなって気持ちよく滑空する。職人芸。Tommiecunniffe)
*JAMES KEANE:Heir Of The Dog Z
(ニューヨークを拠点に活動するヴェテラン・アコ奏者の James Keane の 2012 作。各種ダンスの数々は年代、地域、様々だが、それぞれにノリのよいダンス曲として、小気味よくも力強い。w.Eamon O'Leary,Kathleen Boyle,Tom English。2012 作。New Folk)
*CIORRAS:Silver Lining Z
(アイルランドのテレビ局 TG4 の Donal Lunny の番組で結成された七人組アイリッシュ・トラッド・グループ"Ciorras"の爽快デビュー作。楽器編成はフィドル、、コンサーティーナ、各種フルート{ﾌﾙｰﾄ奏者三名、イリアン・パイプス、ホイッスル、ピアノ、パーカッション、バウロン、ギター、ベース、そして紅一点 Ciara Cunningham 嬢の魅惑のヴォーカル。出来過ぎのアイリッシュ。2010 作。Wispy Cloud)
*3 TRIUR:Omos Z
(Peadar O Riada{ｺﾝｻｰﾃｨｰﾅ},Caoimhin O Raghallaigh{ﾊﾙﾃﾞｲﾝｸﾞﾌｪｰﾚ},Martin Hayes{ﾌｨﾄﾞﾙ}のスーパー・トリオ"3 Triur"の三枚目。全 14 トラック。2013 作。Peadar O Riada)

[CD/LAPLAND]
*ASSU:Luoteniegut C
(サーミ人でヨイク・シンガーの Ulla Pirttijärvi がヴォーカルの Áššu の６年振りの新作。本作収録の曲は動物、自然、冷たい風、友人や親戚の思い出など Ulla にとって夢のような曲だという。呪術的な響きのヨイクに様々な物語がうたい込まれているのだが、ヴォーカルに磨きがかかっているうえに Kenneth Ekornes のパーカッションと Olav Torget の各種ギターとンゴニによる土俗的な伴奏を伴って、インパクトの強いヨイクを創作している。2025 作。Nordic Notes)
*ULLA PIRTTIJARVI:Ruossa Eanan C
(サーミ人シンガーの Ulla Pirttijärvi の 1997 年リリースのデビュー作。収録時 26 歳。デビュー時より見事なヨイク節。Atrium))

[CD/NORWAY,SWEDEN,DENMARK]
*VIIK:Sagt C
(Viik はノルウェーのカリスマ的なシンガーの Elisabeth Vik 嬢率いるノルウェー、スウェーデン、デンマーク出身メンバーによる汎ノルディック・フォーク・グループ。妖精の歌声の Elisabeth の美麗で軽やかなシンギングは正に白眉な上にシスター{中世のシターン系弦楽器}、フィドル、コントラバス、パーカッション、ハーモニカ等によるバンド・サウンドはある種ファンタスティックなユーロ・トラッド＆フォーク・ロックを創作。中世の物語の世界やおとぎ話の世界へと誘う。2024 作。Nordic Notes)

[CD/FINLAND]
*NOUSE LUONTO "Lauluja Monimuotoisuudesta" C

(本作のテーマは「北欧の生物多様性の歌」。その旗印のものに集ったフィンランドのフォーク・シンガー/ミュージシャンは、Frigg,Antti Paalanen,Kasvu,Maria Kalaniemi,Piia Kleemora,Disiree Saarela,Akkajee Ánnámarét & Maja Kauhanen,Anette Akerlund,Akkajee,Kimmo Pohjonen,Maria Kalaniemi & Maja Kauhanen,Yhteiskapple{以上演奏者順)。本作はシンガー/ミュージシャンが入れ替わり立ち替わりな上に、無味乾燥なタイトルから想像されるよりも遙かに素晴らしい、フィンランドのトラッドの感動のアルバム。サーミ或はサーミ風シンギングが実に素晴らしく、彼らの土俗的な唄がコンセプト・アルバムとしての価値を高めている。P22 のブックレット{フィンランド語と英語}付。2024 作。Nordic Notes)

*EMMI KUITTINEN:Surun Synty C

(フィンランドのカレリア地方とイングリア地方の歌唱スタイルを専門とするトラッド・シンガーの Emmi Kuittinen の 2023 年作。フィンランド音楽賞の"Emma Gaala"で年間最優秀フォーク・アルバムにノミネートされたという本作。本作「悲しみの誕生」はフィンランドの民族楽器の素朴な響きと Emmi の悲哀感のあるシンギングは、本作のタイトルそのままの印象で、古き時代のフィンランドの家庭にタイムスリップしたかのよう。Nordic Notes)

*PAUANNE:Joku Raja Rakkaudessakin C

(フィンランドのフォーク・デュオ"Pauanne"～Kukka Lehto{ヴァｲｵﾘﾝ、ヴｫｰｶﾙ、ｶﾝﾃﾚ、ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ、ﾉｺｷﾞﾘ、ｻﾝﾄﾞﾗﾑ},Abdissa Assefa{ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ、ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ・ヴｫｰｶﾙ他}～の三枚目。デュオだが、合計七名のシンガー/ミュージシャンが入れ替わり立ち替わり共演をしていて、音楽性は男女のシンガーをフィーチャーしたトラッド・グループのタイプ。彼らは、前世紀に記録されたフィンランドとカレリア地方のアーカイヴ録音テープの古い曲を現代に甦らせる。2024 作。Nordic Notes)

*SALAMAKENNEL:IV C

(1989 年、1990 年、1992 年に枚のアルバムをリリースした後にバンド活動を停止していた Salamakennel～Arto Järvelä{ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ},Hannu Saha{ｶﾝﾃﾚ},Kimmo Känsälä{ﾍﾞｰｽ}、新加入の Antti Kettunen{ｱｺｷﾞ、ｴﾚｷ、ﾂｨﾀｰ、ﾍﾞｰｽ}の 30 数年振りの新作。メインは Arto Järvelä。Arto はフィンランドの伝統的フィドル音楽を愛しむように演奏し、共演メムバーが響演するスタイルで、カンテレの大家 Hannu Saha のカンテレと Antti Kettunen のツィターが爽やかさを添えている。ゲスト:JPP,Jonna Tervomaa{ヴｫｰｶﾙ}。2024 作。Bafe's Factory)

[CD/SWEDEN]

*HOVEN DROVEN:Trad Z

(Trad と題された Hoven Droven の 2021 年作。1989 年結成以来、30 年以上にわたってスウェーデン・スタイルのフォーク・ロックを果敢に創作してきた彼らが初心の帰りつつ、腕を上げた演奏力と表現力で取り組んだ 30 周年記念アルバム的性格の快作。Heilo)

[CD/NORWAY]

*TRITULEN:Tritulen B

(Tritulen は Ebba Jacobsson がヴォーカルの女性 2 名と男性 1 名の

トラッド･グループ。ノルウェー西海岸の伝統曲を中心にした選曲で､Ebba のシンギングもフィドル､ギター､アコの演奏も極北トラッドの薫りを発するが､ストイックな極北性ではなく､穏やかで牧歌的な極北性。Ebba のシンギングは新緑の森の中を口ずさみ散歩するような爽快気分のシンギング。2012 作。Etnisk Musikklubb)

*JUNI HABEL:Carvings C

(ブリティッシュ･フォーク･タイプのノルウェーの女性 SSW、June Habel の 2023 年作。ほとんどの曲を祖母の家で録音をしたという本作は､さざなみのようなギターが特徴的なギターの弾き語りで､心を鎮め密やかにうたう彼女の唄の世界にじわじわっと引き込まれる。極上の 70 年代ブリティッシュ･フォーク風アルバム。唄は英語。Basin Rock)

[CD/LITHUANIA,ESTONIA,LATVIA]

*THE BALTIC SISTERS:Varav/Varti/Vartai C

(Baltic Sisters はリトアニア､エストニア､ラトビアの４人の女性歌手～Marion Selgal{ｴｽﾄﾆｱ}､Laurita Peleniūtė{ﾘﾄｱﾆｱ}､Vineta Romāne{ﾗﾄﾋﾞｱ}､Liene Skrebinska{ﾗﾄﾋﾞｱ}～からなる女性ヴォーカル･グループ。彼女等は口琴の伴奏やコクレの伴奏で､あるいは無伴奏でバルト三国の伝統歌を四色のシンギングでカラフルなヴォーカル･ミュージックを創作する。全 14 曲。2024 作。CPL Music)

[CD/ESTONIA]

*6HUNESSEQ:Ma Olen Maa Peal V66ras C

(6hunesseq は女性四人エストニアの女性四人組トラッド･グループ。結成は 2021 年。ヴォーカルは Marion Selgall と Greta Liisa Grunberg の二姫。二人のソロ･シンギングとデュエットはフィンランドのヴァルティナのシンギング･スタイルと通じる印象だが､Marion と Greta の唄は控えめで優美で厳か。二人の唄もパイプオルガン､フィドル､タルハルパ{リラ型の弓奏弦楽器演奏}､タンバリン､片面太鼓等による民俗性豊かな伴奏も深い森の中に誘われるようなしっとりとした不思議感がある。北欧系トラッド･アルバムとして秀逸。2024 作。Nordic Notes)

[CD/NETHERLANDS]

*CHIMERA:Obstakel D

(オランダの Stoof から発売されていたオランダの 5 人組トラッド･グループ"Chimera"の 1981 年作の二枚目の CD 盤。ユーロ･トラッドの名盤。1981 年/2024 作。Pan)

[CD/MORDOVIA]

*MEREMA:Eryamon' Koytneva C

(五姫と二太郎の七人組エレクトリック･トラッド･バンド"Merema"の 2022 年作。これは強烈。メムバー達はモルドヴィアの村々で現地調査を行い､モルドヴィアの伝統的民謡を収集し研究。失われつつある民謡を女性シンガー達による伝統的な節回しと呪術的な響きのポリフォニー･コーラスで甦らす。唄も凄みがあるが､馴染みのない伝統楽器と家庭用品＋電気楽器による

土俗性豊かで斬新な演奏も圧巻。歌詞英訳付き。CPL-Music)

[CD/HUNGARY]

*KOLINDA:Incantation D
(Kolinda の 1997 年作。Pan)

*KOLINDA:Forgotten Gods D
(Kolinda の 2000 年作。女性シンガーの Kriszta Kováts を迎え、汎東欧～西アジア的悠久感のある Kolinda 流異種交配エキゾティック・ミュージックを創作。Pan)

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe C
(北欧の魔性的トラッドを彷彿させるフォーク・ロック・グループ"Meszecsinka の 2019 年作。彼らの深淵な野性味と無国籍でエキゾティックな音楽は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つ Oláh Annamaria 嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。孤高のハンガリー発フォーク・ロック。CPL-Music)

☆ ☆ ☆ ☆ その他色々 ☆ ☆ ☆ ☆

※在庫各１枚。検品してお送りします。

(CD/USA,Singer&Songwriter ほか)

*GURF MORLIX:Toad Of Titicaca(2000 作。Catamount Co.) C

*JOHN PRINE:Live On Tour A
(ロサンゼルスの Huh Sound Theater でのライヴ音源曲 12 曲とスタジオ録音曲３曲の 15 曲収録。1997 作。Oh Boy)

*LEON RUSSELL & MARC BENNO:Asylum Choir Ⅱ A
(1971 年/1990 作。DCC/Shelter)

*JIMMIE DALE GILMORE:One Endless Night A
(2000 作。Windcharger Music)

*ALVIN YOUNGBLOOD HART:Terrtory A
(ケースにヒビが入っているのでケースを交換してお送りします。1998 作。Hannibal)

*BOB FRANKE:The Heart OF The Flower(1995 作。Daring) Z

*HIP YOUNG THINGS:Shrog(1994 作。Glitterhouse) Z

*ANNE WEISS:Concrete World And The Lover's Dream Z
(2008 作。Anne Weiss)

*JANO:Certain Things(1995 作。Waterbug) Z

*DIXIE HUMMINGBIRDS:Diamond Jubilation Z
(2003 作。Treasure)

*LOCUST FUDGE:Royal Flush(1995 作。Glitterhouse) Y

(CD/USA{New Age})

*ANCIENT FUTURE:Quiet Fire(1986 作。Narada) A

*ANCIENT FUTURE:Dreamchaser(1988 作。Sona Gaia) A

(サンプル CD/USA)

*ANAIS MITCHELL:Hymns For The Exiled Y
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。2004 作。Waterbug)

*BILLY YATES:Country X
(バーコードに１センチほどの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。

2003 作。M.O.D.）
*MIKE STRICKLAND:Floating X
（ジャケットの右上がカットされたほぼ新品のサンプル盤。1987 作。MSP）

（CD/Canada）
*BOB EGAN:The Glorious Decline(2006 作。Fontana) Z

（サンプル CD/UK）
*JULIAN DAWSON:Move Over Darling A
（バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。w.Dan Penn,Richard Thompson,Roches 他。1997 作。Compass）

（CD/England）
*MANDY MORTON BAND:Valley Of Light B
（1983 年/1995 作。English Garden）
*MEGSON:The The Longshot A
（Debbie & Stu Hanna の二人組"Megson"の 2010 年作。イングランドのトラッドの薫りに充ちたアルバム。2010 作。EDJ）

（CD/Scotland,Ireland,Wales 他）
*THE CELTIC LULLABY Z
（Jean Redpath,Emma Christian,Gerry O Brien & Padraigin Ni Uallachain{2 曲},Margie Butler,Dafydd Iwan,Alison Kinnaird,Plethyn,Mac-talla{2 曲},Parson's Hat,Moira Craig,Chris Norman 他。全 18 トラック。1996 作。Ellipsis）

（CD/Scotland）
*RUNRIG:Transmitting Live(1994 作。EMI) B
*BOYS OF THE LOUGH:To Welcome Paddy Home A
（1989 作。Shanachie）
*BATTLEFIELD BAND:Happy Daze(2001 作。Temple) A
*BATTLEFIELD BAND AND ALISON KINNAIRD
:Music In Trust 2(1988 作。Temple) A
*ALAN REID:The Sunlit Eye A
（ゲスト:Eilidh Mackenzie,Christine Primrose,Arthur Cormac 他。Produced by Robin Morton。1997 作。Temple）
*JOHN McCUSKER:Goodnight Ginger A
（w.Michael McGoldrick,Andy Cutting,Ian Carr,Phil Cunningham 他。2002 作。Pure）
*CAPERCAILLIE:Big Sky(1999 作。Survival) A
*CAPERCAILLIE:Nadura(2000 作。Survival) A
*STIVIE LAWRENCE:Standing Alone(2002 作。Lochshore) Z
*SUNHONEY:November Z
（Alyth McCormack と Aidan o'Rourke の共同プロジェクト。2002 作。Vertical）
*BRIAN O hEADHRA･FIONA MACENZIE:Tuath Z
（"Songs Of The Northland"。2020 作。Naxos）
*MARGARET STEWART AND ALLAN MacDONALD
:Colla Mo Run(2001 作。Greentrax) Z

*SCOTTISH WOMEN Z
(Ray Fisher,Mairi MacInnes,Karine Polwart,Mackenzie,Ishbel MacAskill,Sheena Wellington 他のコンピレーション。全 16 曲。2004 作。Greentrax)
*RURA:Break It Up(2012 作。Greentrax) Z
*DONNIE MUNRO:An Turas Y
(2008 年、Celtic Connections のライヴ。全 15 曲。Greentrax)
*ANNE LORNE GILLIES:O Mo Dhuthaich(1997 作。Iona) Y

(CD/Scotland,Cape Breton)
*ALEX FRANCIS MacKAY:A Lifelong Home Z
(1982-92 年、ケープブレトンにて収録。スコットランド・ルーツのケープブレトン・フィドル。全 14 トラック。1997 作。Greentrax)
*JCB WITH JERRY HOLLAND:A Trip To Cape Breton Z
(スペシャル・ゲスト:Sheumas McNeil。Produced by Jerry Holland。1997 年。Lochshore)

(サンプル CD/Scotland)
*WHISTLEBINKIES:Timber Timbre(1999 作。Greentrax) Z
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。1999 作。Greentrax)

(中古 CD/Scotland)
*BACHUE CAFE:Bachue Cafe Z
(経年劣化元新品 CD。ハープ奏者の Corrina Hewat とピアノ奏者＆ギターの David Milligan の二人組 Bachue Cafe の 1996 年作。今聴いても、Corrina のハープはセンス＆テクニック抜群の素晴らしさ。David のジャズっぽい演奏との見事な融和。1996 年作。Highlander Music)

(CD/Ireland)
*ALIAS RON KAVANA:Galway To Graceland A
(w.Mick McAuley,Tomas Lynch,Leonard Barry 他。1995 作。Alias Recordings)
*AINE UI LAOITHE AGUS EILIN NI CHEARNA:Mna An Oileain A
(女性デュオによる素晴らしい女性トラッド・シンギング・アルバム。ゲスト:Muiraenn Nic Amhlaoibh{Danu},Vinnie Kilduff。2003 作。MNACD001)
*EILIN NI SHUILLEABHAM:Cois Abhann Na Sead Z
("Traditional Songs From Muskerry"。1997 作。CICD132)
*YVONNE CASEY:Yvonne Casey Z
(w.Eoin O'Neil,Quentin Cooper Grau,Kevin Griffin,Terry Graham,Luka Bloom 他。YCCD001)
*GERALDINE BRADLEY
:From The Rising Spring Cloch Fharain Z
(w.Neil Martin,Rod McVey,Paul Bradley,Martin Quinn,Alan Bourke 他。Coolnacran)
*BRENDA SMYTH:Basil And Thyme Z
(w.Mairtin O'Connor,Jim Higgins,Brendan O'Reagan,Sean Tyrrell,Jim Murray,Laoise Kelly,Trevor Hutchinson 他。

2002 作。Jighig)
*SEAMUS WALSE:Clare Accordion Z
(w.Tommy Hayes,Jimmy Higgins,Brendan Larrissey,Mark Kelly,
Eugene Kell,Martin Murphy。1996 作。Ceol Music)
*SEAN HERNON:An Nora Bheag Z
(ゲスト:Johnny Connolly & Peadar O Ceannabhain。1997 作。
CICD123)
*FRANKIE GAVIN･RICK EPPING･JIM EDEN:Jiggin' The Blues Z
(2008 作。Greentrax)
*GERALDINE MacGOWAN & FRIENDS:Reconcilation Z
(1995 作。Magnetic Music)
*BOHOLA:Bolola(2002 作。Shanachie) Y
*KARL NESBITT:Vistapoint(2009 作。KN002) Y
*PHIL HARDY:Low Whistle(2000 作。KWL)

(CD/Iceland)
*FUNI:Flur(2013 作。GMCD007) A

(CD/Sweden)
*SAGSKARA:Orm(2006 作。Drone Music) A
*KRAJA:Vackert Vader((2005 作。Drone Music) A
*HOVEN DROVEN:Rost(2011 作。Westpark) Z
*LUC PILARTZ:Musique De Suede(2005 作。Wild Boar Music) Y

(CD/Norway)
*BLATT GADN:Blått Gådn A
(ノルウェー南部ヴァルドレス地方の三人組～Ingvild Lie{ヴォ
ーカル､ﾗﾝｹﾞﾚｲｸ},Harald Høyvik{ｷﾞﾀｰ､ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ},Lars Skattebu{ハ
ﾙﾓﾆｭｰﾑ}～のトラッド･グループの 2013 年作。Talik)
*TRON STEFFEN WESTBERG:Gammelpols Z
(ノルウェーのレーロス地方のフィドル･ミュージック。Tron の集
中力ある演奏は､闇の中を一筋の音が舞いながら美しい白線を
描くかのよう。全 26ﾄﾗｯｸ。2013 作。Ta:lik)
*JENNY LYSANDER:Northern Folk Z
(発売時 Jenny は 21 歳。ブリティッシュ･フォーク･スタイルの珠玉
の女性 SSW アルバム。清々しく健やかな｢Nic Drake 風｣なアルバ
ム。歌詞は英語。2015 作。Beating Drum)

(CD/Denmark)
*SERRAS:O Z
(Herald Haugaard{ﾌｨﾄﾞﾙ},Hans Mydtskov{ｻｯｸｽ},Sune Hansbaek
{ｷﾞﾀｰ},Sune Rahbek{ﾄﾞﾗﾑｽ},Mads Riishede{ﾍﾞｰｽ}から成るフ
ォーク･ロック･バンドの。2008 年作。Go')

(CD/Belgium,Flanders)
*HELEN FLAHERTY:Oft Times I've Been Cheery C
(Shantalla のヴォーカルの Helen のソロ。2004 作。Wild Boar Music)

(CD/France,Bretagne)
*ANNE DE BRETAGNE "Live Au Chateau Des Ducs De Bretagne"

¥2890(税込み¥3179)
(ブルターニュでのライヴ三枚組。Fairport Convention{11 曲},
Celile Corbel{5 曲},Tri Yann,他。2010 作。Babaika Prod)
*CECILE CORBEL:La France(2014 作。Polydor) B
*BROTTO LOPEZ SEXTET:La Ronda Dels Viatges A
(南仏オクシタニアのトラッド･バンドの 2014 年作。ワールド･クラス。Camom)
*MIREILLE BEN ENSEMBLE:Miniatures Z
(イタリアを拠点に活動するフランス出身の女性シンガー
Mireille の 2006 年作。「フランスの伝統を巧みに表現したこの CD は、時に風変わりで、常に驚きと楽しさに満ちています」
{RootsWorld}。FolkClub Ethnosuonio)

(CD/Portugal)
*SEIVA:Seiva Z
(Joana Negrao{ｶﾞｲﾀ、ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}、Vasco Ribeiro Casais{ｷﾞﾀｰ、ｶﾊﾞｷｰﾆｮ、ｶﾞｲﾀ、ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}、Rita Novoa{ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ}による音楽は、リズムが多様で大地の音を響かせ、Seiva のヴォーカルは民俗色を強めてパワフル。驚きのシンガーだ。2015 作。Galileo)

(CD/Basque)
*OLATZ ZUGASTI:Bulun Bulunka D
(バスクのフォーク･シンガーでハープ奏者の Olatz Zugasti の 1999 年作「子どもの唄」アルバム。優美で穏やかなバスク音楽の名盤。Elkar)

(CD/Spain)
*FOLK ON CREST:Lonxe A
(紅一点の Yolanda Rio がヴォーカルのサラマンカのトラッド･バンドの 2014 年作。Several)

(CD/ISRAEL)
*CHAVA ALBERSTEIN:Sings Yiddish Z
(全 21 曲。1979 年/1987 年/1989 作。CBS)

(CD/Hungary)
*MAKAM:Akom Bakom(2006 作。Z Paravan Kiado) A
*META:Betoltse Szivedet...(2001 作。FolkEuropa) A
*AGOCS GERGELY:Kinlencz Ballada(2012 作。Fono) Z
*LANTOS IVAN:Holnapig(2003 作。Etnofon) Y

(CD/Mali)
*MAMADOU DIABATE:Behmanka(2005 作。Tradition & Moderne) Z

(CD/Guinea)
*MORY KANTE:Sabou(2004 作。Riverboat) Z

(CD/Zimbabwe)
*BLACK OMFOLOSI:Unity(1990 作。World Circuit) X

(CD/Mozambique)
*MUSIC FROM MOZAMBIQUE(Caprice。2001 作)　Y

(CD/Mexico)
*LOS CAMPEROS DE VALLES:El Triunfo　Z
(メキシコ北部の山岳地帯ワステカ地方出身の伝統音楽グループの 1992 作。Musica Tradicional)

(CD/Argentine)
*ANTONIO TARRAGO ROS:Chamame　Z
(アコーディオンなどを使ったアルゼンチンのフォルクローレ系音楽「チャマメ」の第一人者による 1990 年作。今も現役で活動中。Music Hall)

(CD/Indonesia)
*ELVY SUKAESIH:Elvy Sukaesih　A
(直輸入国内盤。「世界が待っていた！エルフィ・スカエシ。インドネシア・ダンドゥット・クィーン、５年振りのカムバック作」{帯より}。1991 作。A-Z-A/WAVE)

［ＬＰ］在庫各１枚。多少経年劣化気味。
※検品してお送りします。
(LP/USA)
*PRINCE BAKARADI:Prince Bakaradi　C
(Mark Mandell,Fred Sokolow,Roly Sally,Alan MacGill,Don Heffington の名うてのミュージシャンから成るロック・バンドの 1980 年作。Appaloosa)
*JOHN McCUTCHEON・SI KAHN:Signs Of The Times　C
(1986 作。Rounder)
*PAUL KAPLAN:Life On This Planet　C
(Fast Folk 関係の SSW、Paul Kaplan のデビュー・アルバム。w.Mark Dann。1982 作。Hummingbird)
*CHRISTINE LAVIN:Future Fossils　B
(w.Mark Dunn,Howie Wyeth,Paul Kaplan。1984 作。Polindrome)
*ARTESIAN DREAMS:Artesian Dreams　B
(ミネソタのフォーク・グループの 1980 年作。Artesian Dreams)

(サンプル LP/USA)
*LeBLANC & CARR:Midnight Light　B
(国内盤。解説:鈴木道子。曲目解説:北中正和。盤のラベルに非売品とプリント。1977 作。ワーナー)

(LP/USA{Trad})
*NED BACHUS:Raisin D'Etre(1984 作。Folk Tradition)　C

(LP/CANADA)
*TERRY CHRISTENSON:Fire In The Snow　C
(w.Willie P. Bennett{ハーモニカ}。1985 年 Harvestholm)
*THE GORD PENDLETON BAND:Geggards Can Be Choosers　C
(カナダの SSW の Gordon Pendleton 結成バンドの 1982 年作。Newmark)

*DAVID SEREDA:Chvary Lives(1981 作。Rocky Wednesday)　　A
［中古ＬＰ］特記なしはほぼ新品
(LP/USA)
*CHARLIE KING:My Heart Keeps Sneakin' Up On My Head　　A
(カット盤。ジャケット経年劣化。with Dave & Kay Gordon。
1984 作。Flying Fish)

(LP/USA{Trad,Celtic})
*ROXANNE & DAN KEDING:From Ear & Near　　A
(ジャケット経年劣化。1980 作。Traveller)

(LP/AUSTRALIA)
*THE BUSHWACKERS BAND:Murrumbidgee　　税込み¥5800
(オーストラリアの Fairport、Bushwackers Band{Dave Mattacks がドラムス}の 1977 年作。Produced by John Wood。1977 年/1979 作。カナダ盤。Boot)

（あとがき）
*米国の Kassi Valazza、カナダの Matthew Burne、英国の Christina Alden & Alex Patterson、アイルランドの Niall McCabe、Etain & Maire Ni Churraoin、Eimear Coughlan & Francis Cunningham など Eric Andersen から見たら孫世代のミュージシャンのアルバムがどのアルバムも素晴らしく、彼らとのやり取りを含め、楽しいリスト作りになりました。
*タムボリンで大人気の Chris Brain の日本ツアーの日程が決まりました。Chris Brain も孫世代ですね。
10/4[土]カフェ・トラモナ(東京都あきる野市)《開場 16:00 開演 17:00／前売 4,000 円（+別途要ドリンク） TEL：042-842-3488》を皮切りに/10/6［月]名古屋 TOKUZO、10/8［水]鎌倉 Cafe Goatee 10/11［土]下北沢ラ・カーニャ、10/14［火]金沢 もっきりや、10/19［日]京都・一乗寺 インキョカフェの予定が組まれています。招聘は Tom's Cabin。残念ながら Chris Brain の商品の在庫は二枚目"Steady Away"(CD)が一枚しか残っていません。価格は C です。カフェ・トラモナは半数以上がタムボリンの常連さんかと思われます。Chris Brain にもそう伝えるつもりです。
*本通販リストの発送業務が終了し次第、**夏休みに入ります**。皆さま、くれぐれも熱中症に気をつけてお過ごし下さい。(船津)



タムボリン＆生山アイリッシュハープ教室の看板猫のまり。ハイ、ポーズ。



牧場の朝。どこかにポニー（テディー）がいます。

ご注文は　song@tambourine-japan.com　又は tambour@ya2.so-net.ne.jp(CC 用) へ。